

マコガレイの肥満度、生殖腺指数の変化

福島県水産資源研究所 資源増殖部

1 部門名

水産業—資源管理—底びき網

2 担当者名

白土遼輝・守岡良晃・山田学

3 要旨

本県の沿岸漁業は令和 3 年 3 月に試験操業が終了し、4 月からは本格操業への移行期間として、漁獲量は着実に増加している。一方で沿岸性カレイ類については、漁獲量は減少傾向にある。さらに漁業者から近年、マコガレイの身が痩せている、腹が張っていないとの指摘があり、マコガレイについて震災前後で肥満度及び生殖腺指数（以下 GSI）の変化を調査した。その結果、震災後の肥満度は震災前より全体的に低下しており、生殖腺成熟に影響を与えているものと考えられた。

- (1) 震災前後のマコガレイ（全長 200mm 以上）の月別平均肥満度（体重（g）/全長³（cm）× 1,000）を算出した結果、肥満度の年間推移は同様であったが、震災後の肥満度において全体的に低下していた（図 1）。
- (2) 震災前後のメスの全長別 GSI を算出した結果、全長 300mm 未満の個体において震災前後で大きな差は見られなかった。全長 300mm 以上の個体では、産卵期に近づく 10 月以降の GSI の増加傾向に違いがみられた（図 2）。

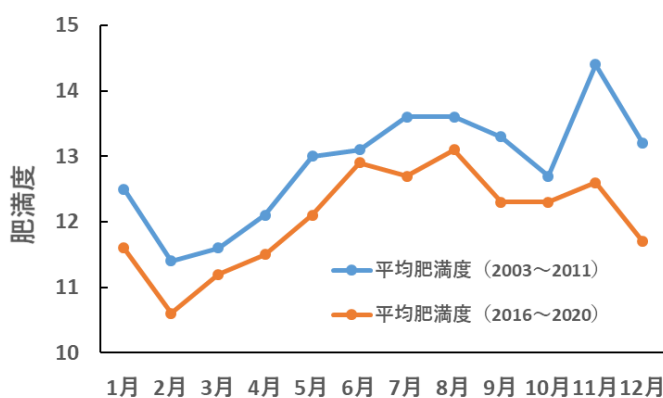


図 1 震災前後の月別平均肥満度 (メス)

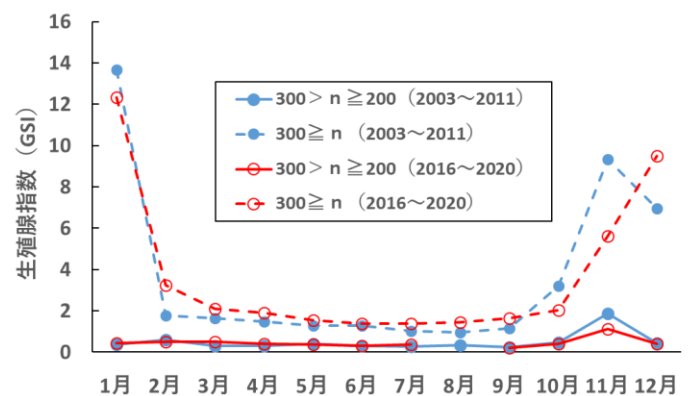


図 2 震災前後の全長別月別生殖腺指数 (メス)

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和 3 年度～令和 7 年度
- (2) 研究課題名 沿岸性底魚類の生態と資源動向の解明

5 主な参考文献・資料

- (1) 平成 15 年～平成 29 年度福島県水産試験場事業概要報告書